

## 各協議会からの提案概要

1. 協議会名称 「東京ユビキタス計画・銀座」実施協議会

代表者 会長 横溝 良一

2. 実施箇所 東京都中央区銀座四丁目交差点を中心としたエリア

3. テーマ

いつでも、どこでも、誰でもが、必要な情報をその場で手軽に得ることができるユビキタス社会の実現に向け、最先端のICT技術を活用したユビキタス空間場所情報システムを、観光、商業やバリアフリー等の視点から活かし、日本の優れた技術を世界に発信

4. 提案内容

【情報提供の対象者】

視覚障がい者

【提供する情報の内容】

移動案内情報、移動の障害になるものの注意喚起、周辺施設・店舗情報

【場所情報コードの活用方法】

地点地点でのリレー式道案内

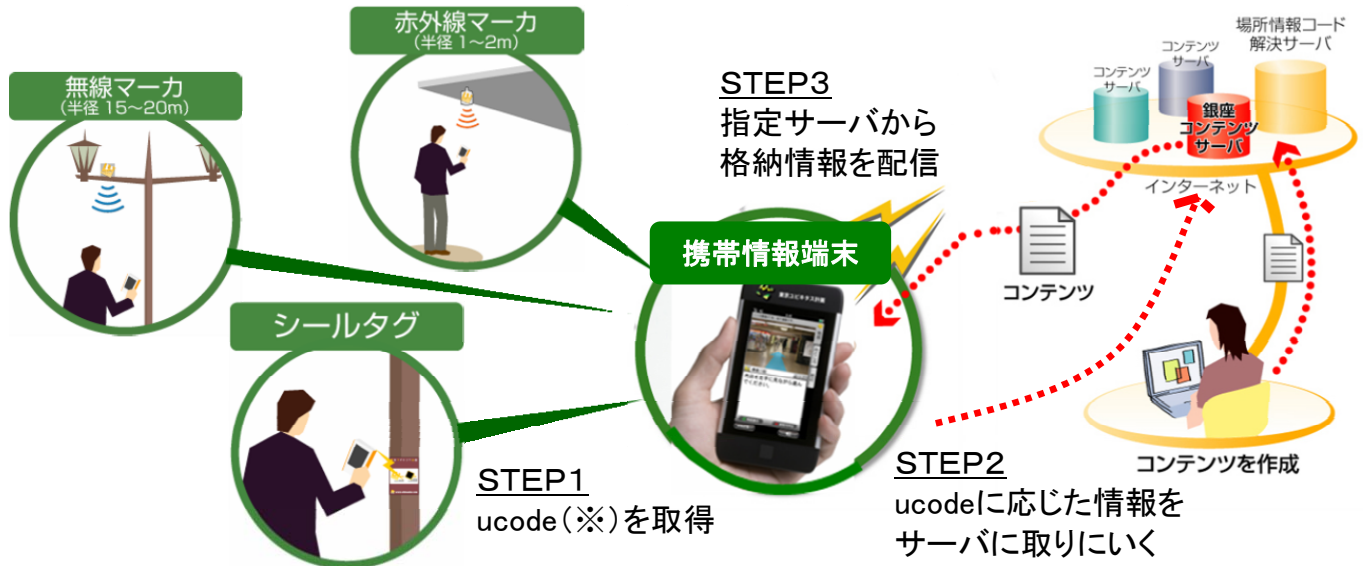
【歩行者の位置特定方法】

アクティブマーカから発信される位置情報を携帯端末が受信

【歩行空間ネットワークデータの活用方法】

音声による道案内

図. 歩行者の位置特定及び情報提供のイメージ



※モノや場所を識別するために、ひとつひとつに対して与えられた「世界にたったひとつの番号」(固有のID)

5. 数値目標と達成時期

- ・年内にシステムを構築し、年度内に10名以上の視覚障害者の参加を得て体験してもらう。
- ・参加者から意見を聴取し、2/3以上の方から好意的な評価を得る。(平成23年3月)

1. 協議会名称 (仮称)台東区谷中地区モビリティサポートモデル事業推進協議会  
 代表者 台東区文化産業観光部にぎわい計画課長 石野 壽一

2. 実施箇所 東京都台東区谷中地区

3. テーマ  
 “誰にもわかり易く、便利で楽しい、しかも安心”な街歩きの実現

4. 提案内容

【情報提供の対象者】  
 高齢者、障がい者、子育て家族、観光客(特に外国人観光客)

【提供する情報の内容】  
 バリアフリー情報、交通情報、医療機関等緊急時の情報、買い物情報、特典情報

【場所情報コードの活用方法】  
 電子透かし技術付QRコードを観光案内板、住居表示板等に貼付

【歩行者の位置特定方法】  
 QRコードを携帯で読み取り

【歩行空間ネットワークデータの活用方法】  
 バリアフリーマップの作成やバリアフリー経路検索並びに移動案内サービスの提供



5. 数値目標と達成時期

- ・平成22年度は、誰にもわかり易く、便利な情報提供を行い、安心して街歩きができ、買い物や観光を楽しめる地域を目指す。
- ・来訪者アンケートを実施し、満足度として80%。(平成22年度中)  
 (参考:平成21年度 来訪者満足度割合67. 2%)

1. 協議会名称 (仮称)武山養護学校モビリティサポート協議会

代表者 葉山町福祉課長 行谷 正志

2. 実施箇所 神奈川県立武山養護学校登校エリア(神奈川県横須賀市、逗子市、三浦市、三浦郡葉山町)

3. テーマ

情報端末を利用した特別支援学校生徒の通学の移動支援

4. 提案内容

【情報提供の対象者】

養護学校の生徒、生徒の保護者、学校の教職員

【提供する情報の内容】

通学時における生徒の位置情報及び経路案内

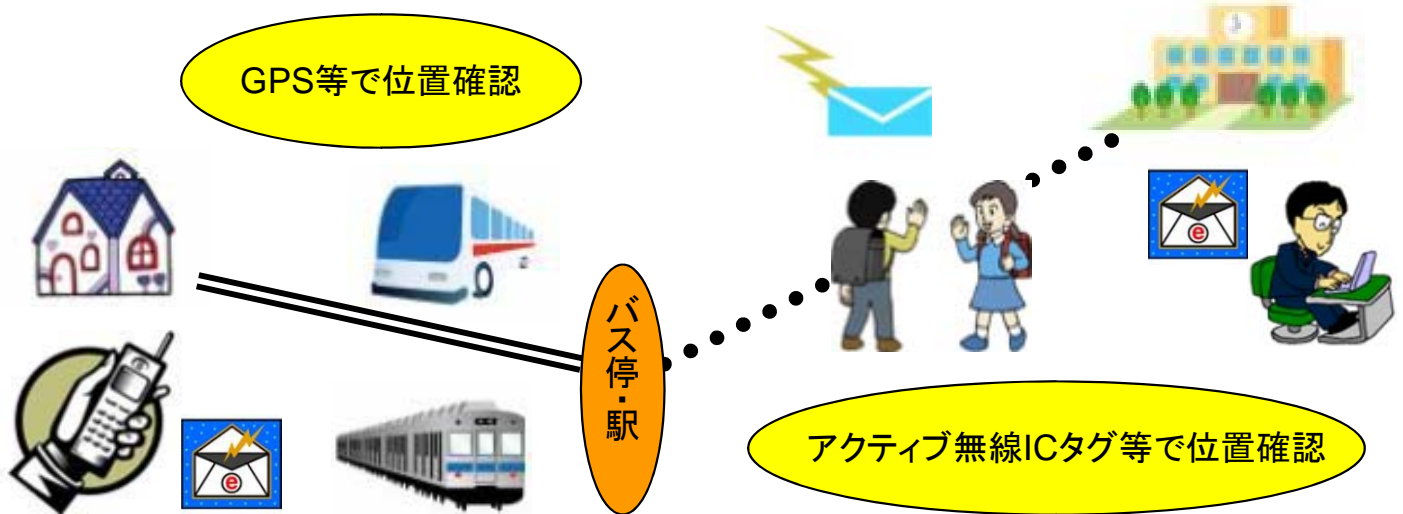
【場所情報コードの活用方法】

特別支援学校の周辺の駅やバス停、通学路周辺に位置特定インフラを設置

【歩行者の位置特定方法】

GPS、位置特定インフラ(パッシブ及びアクティブ)を使用

図. 歩行者の位置特定及び情報提供のイメージ



携帯端末で位置特定インフラからの位置情報を得て、保護者及び学校に登下校時の生徒の位置をメールで伝える。

5. 数値目標と達成時期

- ・実証実験へ30名以上の生徒が参加。(平成22年12月末)
- ・道に迷わず自力通学できる生徒数の2割増加。(平成22年12月末)
- ・位置確認情報の提供により、登下校時の保護者や教職員の精神的・物理的負担を軽減。

1. 協議会名称 京都子連れ観光推進協議会

代表者 代表 丸橋 泰子

2. 実施箇所 京都府京都市、宇治市、向日市、長岡京市

3. テーマ

子連れ・孫連れ観光を実現させるためのコンテンツづくりやホスピタリティの高いまちづくりの推進

4. 提案内容

【情報提供の対象者】

子連れママとその家族

【提供する情報の内容】

バリアフリー情報、子連れ観光情報

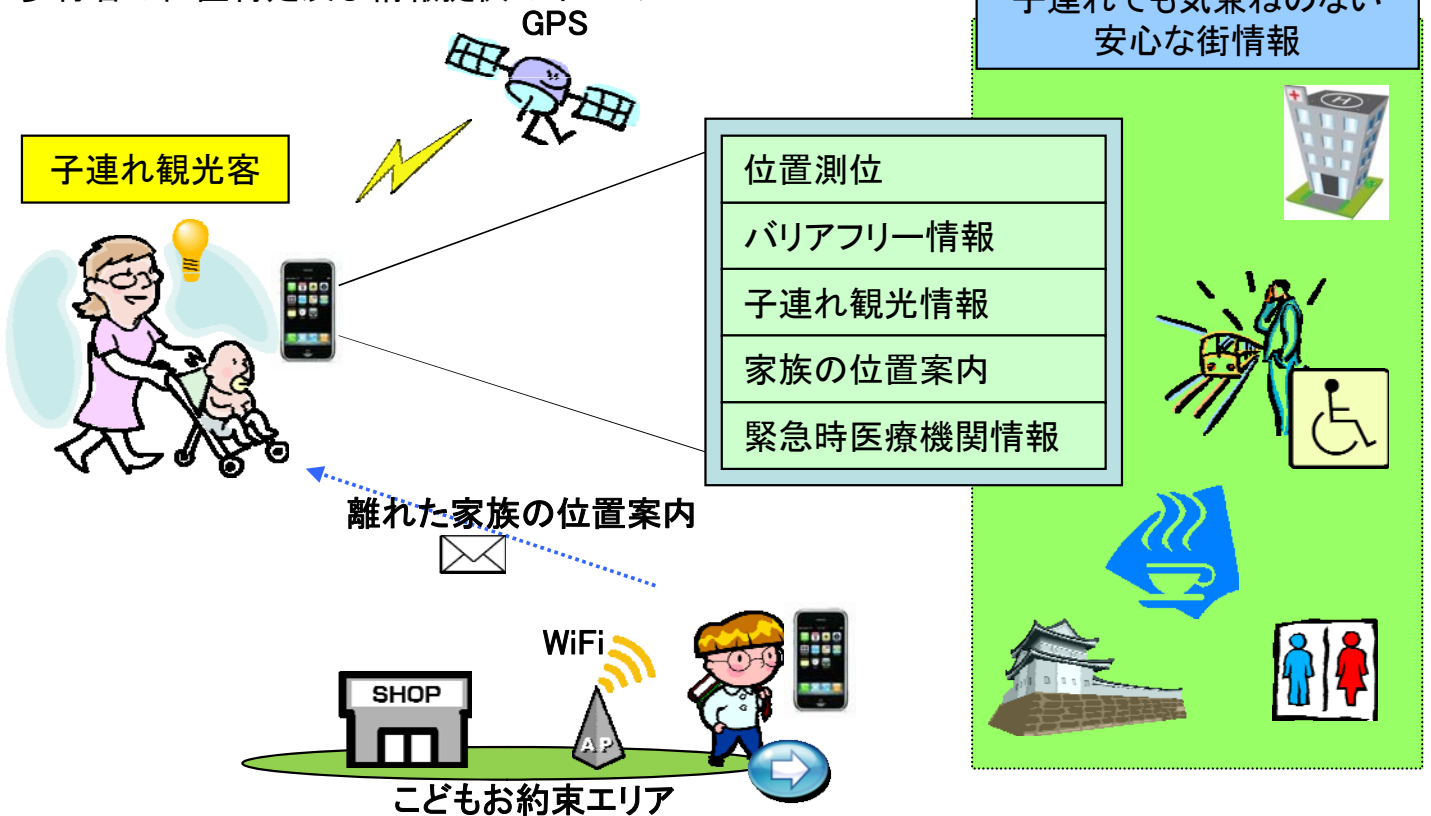
【場所情報コードの活用方法】

施設に付与

【歩行者の位置特定方法】

GPS、WiFiエリア内における位置検知等を使用

図. 歩行者の位置特定及び情報提供のイメージ



5. 数値目標と達成時期

・子連れ観光コンテンツ数: 350件、アフィリエイト(広告を経由し生じた利益に応じて広告料を支払うシステム)契約店数: 30件。(平成23年3月)

・情報コンテンツのダウンロード数: 10,000件。(平成23年3月)

・関連産業等の雇用人数: 500人/年。(平成26年度)



1. 協議会名称 (仮称)丹波篠山ユビキタス推進協議会

代表者 篠山市長 酒井 隆明

2. 実施箇所 兵庫県篠山市 篠山城下町地区

3. テーマ

障がい者・高齢者などの移動制約者の移動ニーズが高い地区において、ユビキタス環境の整備と自律移動支援のためのシステム構築

4. 提案内容

【情報提供の対象者】

障がい者、高齢者、観光客

【提供する情報の内容】

移動経路情報、位置情報、トイレ情報、観光情報、バス時刻案内

【場所情報コードの活用方法】

主要公共施設、観光施設、バス停などにQRコードを貼付

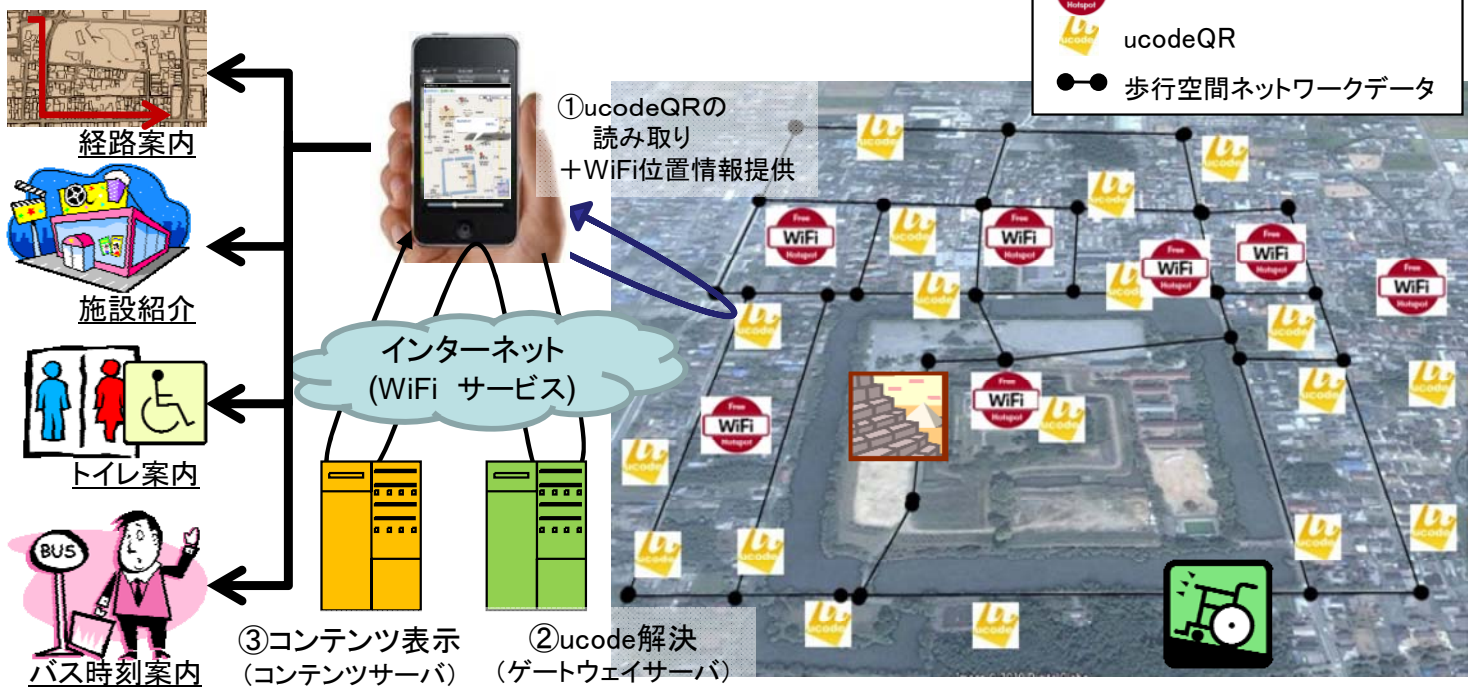
【歩行者の位置特定方法】

QRコードを携帯電話等で読み取り、WiFiエリア内における位置検知

【歩行空間ネットワークデータの活用方法】

車椅子による歩行に適切/不適切なルートを図化し提供

図. 歩行者の位置特定及び情報提供のイメージ



5. 数値目標と達成時期

・期間中の実証実験の参加者数 100名以上、うち、WiFi端末機の貸出数を50名以上。  
(平成22年12月)

・参加者アンケート回答者の中で、「地区の回遊性向上に効果がある」「地区内を安全快適に移動するのに効果がある」という回答を過半数以上から得る。(平成23年1月)

1. 協議会名称 津和野町ユビキタス観光ガイド運営協議会  
 代表者 会長 財間 章

2. 実施箇所 島根県津和野町

3. テーマ  
 障がい者(車いす使用者、肢体障がい者)及び高齢者、外国人等の移動制約者に対する歩行中の注意喚起・緊急情報、観光情報の提供

4. 提案内容

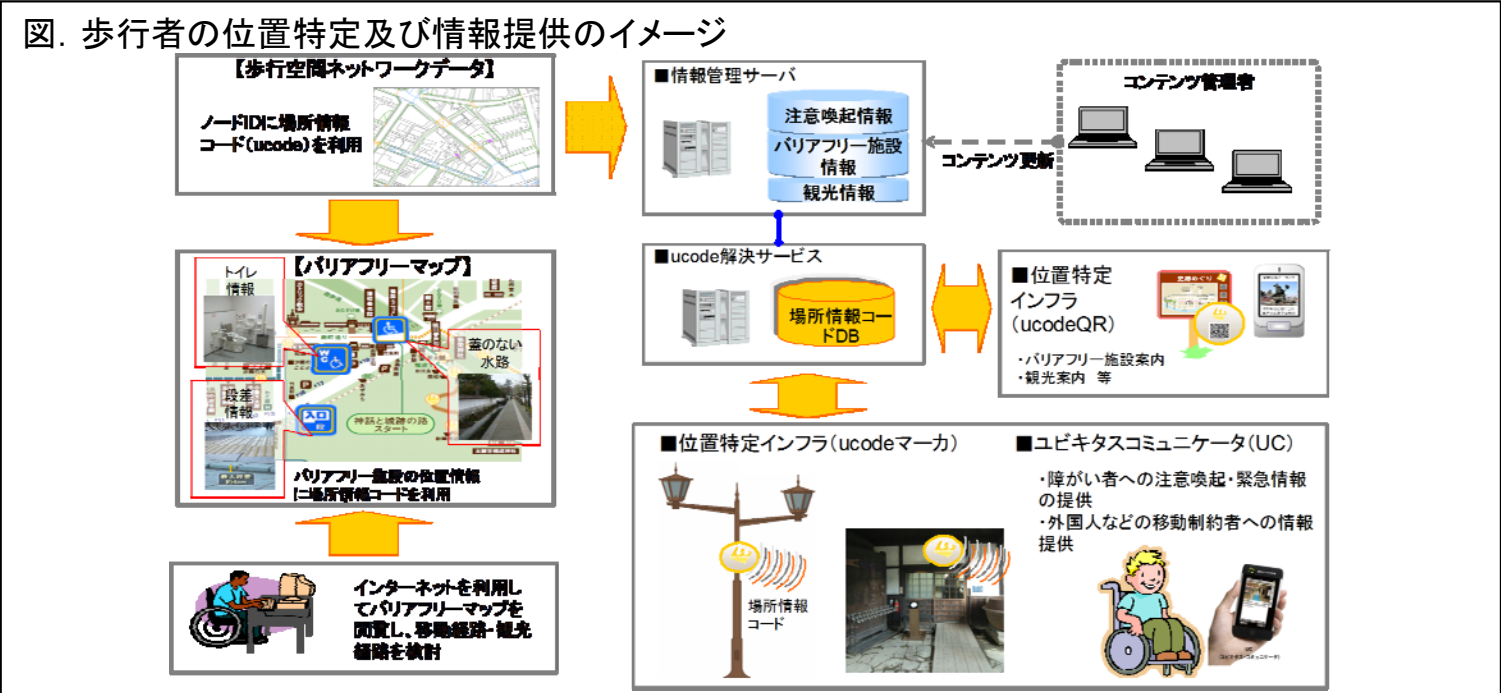
【情報提供の対象者】  
 高齢者、車いす使用者、肢体障がい者、外国人、初めて訪れる人

【提供する情報の内容】  
 移動制約者への注意喚起・緊急情報提供、現在地位置案内、施設情報提供(バリアフリー施設、休憩施設など)

【場所情報コードの活用方法】  
 位置特定インフラ(無線マーカ、赤外線マーカ、ucodeQR)、歩行空間ネットワークデータの「ノード」のID番号

【歩行者の位置特定方法】  
 街中に設置されている無線マーカ及び赤外線マーカを利用し、専用端末(ユビキタス・コミュニケーター)により提供

【歩行空間ネットワークデータの活用方法】  
 段差・幅員・勾配・蓋のない水路などのバリア情報を注意喚起情報、緊急情報として提供  
 バリアフリーマップとしてインターネットや紙媒体を利用して情報提供



5. 数値目標と達成時期

- ・津和野町を訪れる障害者、高齢者のシステム利用満足度:70%。(平成22年度中)
- ・津和野町を訪れる外国人のシステム利用満足度:80%。(平成22年度中)
- ・観光客の再訪希望者割合:70%。(平成22年度中)
- ・他地域へのシステムの水平展開の希望:80%。(平成22年度中)

1. 協議会名称 天神・大名地域WiFi化推進協議会  
 代表者 事務局長 杉山 隆志

2. 実施箇所 福岡市天神 天神地下街

### 3. テーマ

○天神・大名地域を訪れる移動制約者向け回遊支援

○移動制約者の属性に合わせた経路を案内できるよう、通路の属性を整理して、歩行者に対しての優しい街づくり

### 4. 提案内容

#### 【情報提供の対象者】

高齢者、妊産婦、ベビーカーを必要とする家族、身体障がい者

#### 【提供する情報の内容】

地下通路・地上通路を選択可能な経路情報、昇降手段別の経路情報、経路の進行方向情報、商店・施設情報及び経路情報

#### 【場所情報コードの活用方法】

属性を持った歩行空間ネットワークの作成に活用

#### 【歩行者の位置特定方法】

WiFiエリア内における位置検知等を使用

#### 【歩行空間ネットワークデータの活用方法】

利用する人の属性に合わせた経路を案内する仕組みを構築

### 図. 歩行者の位置特定及び情報提供のイメージ



情報提供の対象者:

高齢者、妊産婦、ベビーカーを必要とする家族、身体障がい者

### 5. 数値目標と達成時期

・移動制約者の方への聞き取り調査により、以下の項目について、それぞれ70%の回答を得る。  
 (平成23年3月)

○地下街の移動情報を容易に得られるようになった。

○地下街を利用する頻度が増えた。